

横浜国立大学 建設システム工学コースの教育について

池田 尚治

(1) 基本理念

大学を人類の知の殿堂と位置づけ、社会基盤に関連する広範な工学分野を対象にその学術を究め社会に貢献する。同時に人間性を高め倫理性と人類愛に根ざした思考能力の重要性を認識し、自己発見的かつ創造力豊かな感性を磨くことにより自然と調和した人工環境の創出を図る。

(2) 教育目標

土木工学分野（建設システム工学分野）の社会における役割と意義とを認識させ、その分野の専門技術者、研究者として能力を最大限に発揮できるような教育を行う。教育水準は常に世界の水準を目指し、国際的にリーダーシップの発揮できる人材を育成することを目標に次世代の専門職業教育を行う。

(3) 教育方法

教育目標を達成するために数学、力学、材料学、統計学などに基づいた厳密な解析能力と設計能力とを学ばせ、基本理念を念頭において学習の意義と喜びを感じさせる。また、優れたものを評価できる能力を培わせる。

教官はそれぞれの専攻分野で最先端の研究を行い、また、その成果を社会に反映させる活動を行うことによって、教育にそれらを反映させる。これによって学生の好奇心を高め、創造的思考の重要性とその社会に対する貢献とを認識させる。

教育カリキュラムは学部教育、大学院教育を通じて系統的なプログラムとする。学部教育は大学教育における普遍的な学術、思想を学び専門技術者としての最も基本的な素養を身に付けるようにする。また、建設システム工学技術としての中核となる総合的な専門科目を学習させる。最終年次には特定の専門分野に関する研究を行い、卒業論文を作成させることにより最新の課題を自ら考究させる。大学院教育では理論的、解析的能力を高めることを主眼に、高い水準の学術を教育する。

付記：

大学の理念は、普遍的なものであって、各大学の固有のものではあり得ない。ただし、教育方法は固有のものである。「港都横浜にある大学」「京浜工業地帯にある大学」といった表現は応援歌の精神であって学術的な精神ではないと思われる。

「実践性」および「主体性」は、用語として用いない方が良いと思われる。何故ならいずれも大学の持つ本来の役割（人類が本質的に大学に期待しているもの）に合致しないからである。